

# カラコギカエデ

*Acer ginnala*

カエデ科



カラコギカエデ。実をつけたところ。円内は特徴的な葉

## 名前の由来

カエデは、蛙の手のような葉なので、「蛙手(かえるで)」の変化。カラコギは「鹿子木(かのこぎ)」の変化。  
漢字名：鹿子木楓

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
鳥類  
ワシ・タカ

## 形態的特徴

湿地や原野に生える落葉広葉樹、樹高6~10m。雌雄同株。葉は長さ5~10cmの卵形で基部近くで3浅~中裂し、欠刻状の重鋸歯あり、先はとがる。対生。花は円錐花序に黄緑白色で径5~7mmの花をつける、雌雄異花で両生花もある、5~6月開花。雌雄異花。果実は翼果で長さ2.5~4cm、9~10月に赤色~暗赤色に成熟。

類似種との見分け方：ネグンドカエデは葉に厚みがあり、高木になるが、カラコギカエデは高木にならない。ネグンドカエデは幹から直接細かい枝が出る。



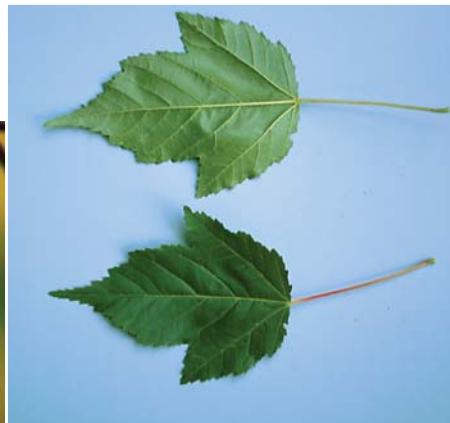
カラコギカエデの雄花



カラコギカエデの雌花



翼のあるカラコギカエデの実。付け根付近に種子あり



カラコギカエデの葉。特徴的な形をしている。大小二重のギザギザ(重鋸歯)がある



カラコギカエデの樹形



カラコギカエデの樹皮。うろこ状にはがれる



カラコギカエデの冬芽。2つずつ向かい合う。2~3mm



カラコギカエデの葉。2つずつ向かい合っ枝につく(対生)

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期		■										
結実期						■						

## 生育環境・分布

十勝の低木の主要樹種。林内や林縁、湿地に生育。河畔林に多い。**分布**：国外分布は、朝鮮、中国東北部、東シベリア。国内分布は、北海道、本州、四国、九州。北海道内分布は、全域（沼、沢、林野）。十勝地方生育状況は、全域。



カラコギカエデ。中程度の大きさ。林縁部でもよく見られる

## 繁殖生態・寿命

花期は5～6月、種子は9～10月に成熟。寿命は不明。

## 他生物との関わり

低木で、細かい枝が密生して、藪を形成するので、藪の中にアオジやアカハラ等の小鳥が巣をつくる。

## 植栽関係

種子は1～2年で発芽。樹齢25年で、直径15cm、樹高6m、根系の最大深度120cm、根の広がり半径1.5m。根の支持力は中程度。移植は容易。水辺に良く生育する木だが、常に水に浸かる場所では、枯れる。土壌：壤土～埴質壤土、弱湿性～弱乾性、通気性は悪い場所良い、pHは耐アルカリ性、堅密度は中程度の場所。光は中間性～陽性。



アオジ（左）とアオジの巣（右）

## 興味深い話

- 器具材、公園樹などに用いられる。
- 翼のついたプロペラのような果実で、1片をちぎって空中に投げると、クルクル回転しながら落ちる。
- 秋にはまず実が赤くなり、続いて葉も紅葉する。



赤くなったカラコギカエデの実



冬にもついているカラコギカエデの実



カラコギカエデの紅葉

## 配慮事項

根系の最大深度120cm、根の広がり半径1.5m。根の支持力は中程度。移植は容易。水辺に良く生育する木だが、常に水に浸かる場所では、枯れる。

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
ワシ・タカ  
鳥類

### 参考文献

「北海道樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990

「新装版 樹木根系図説」荏住昇 誠文堂新光社 1987

「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992

広葉樹の実生による繁殖 久保田泰則 光珠内季報40巻 1979  
p:16～p:26